

平成23年度教職大学院派遣研修研究報告書

研修生番号	23K21	氏名	横山 佳世
研究主題 —副主題—	学習につまずきのある子供への一斉指導の中で行う支援 —指導の反応に基づく実践—		
所属校	小平市立小平第六小学校	派遣先	早稲田大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>(背景)</p> <p>特別支援教育の推進により、通常の学級において ADHD, LD, 高機能自閉症、アスペルガー症候群等発達障害についての担任による気付きと理解が進んでいる。通級指導学級の利用者も年々増加している。加えてこれからは通常学級の普段の授業の中で学習のつまずきに対する予防的支援を意図的に行う必要が生じてきている。特に、学習面に著しい困難を示す児童・生徒は、二次障害（不登校など）が起こらないと、教員の目にとまりにくい、通常の学級の中では気付かれにくく、適切な対処や支援を受ける機会が少ないと言われている。特別支援教育体制が整備される中、今後は教室での一斉指導の中で、学習につまずきのある児童・生徒に対する支援について検討していく必要があるのではないかと考えた。</p> <p>(目的)</p> <p>多層支援モデルの活用により、効果的な予防的支援が実現できると仮説を立て、RTI 及び MIM の考え方にに基づき、児童の反応をもとにした「読みの困難」に対する授業設計の在り方を探ることを目的とする。</p>
II 研究の方法	<p>〈先行研究をもとにした授業設計〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多層指導モデルにおける二次的支援の充実</li> <li>・児童の反応をもとにした新たな指導プラン作成</li> <li>・教科を超えた授業モデルの試み</li> <li>・つまずきの早期発見、適切な介入、介入への反応の把握のための児童・教師の自己評価方法</li> </ul> <p>〈多層指導モデルを取り入れた授業実践〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二次的支援に力を入れた指導 4年生「日本語」</li> <li>・一次的支援に力を入れた指導 3年生「理科」</li> </ul> <p>〈児童の実態把握〉</p> <p>ア) 授業観察 イ) アセスメントの作成、実施</p> <p>〈授業設計〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習スタイルを活かした支援</li> <li>・一斉授業の中での個別の声掛けや支援</li> </ul> <p>〈評価〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ごとの児童のプログレスの把握（アンケート、ノートの記入内容のチェック）</li> </ul>

<p><b>Ⅲ 研究の結果</b></p>	<p>個の反応を活かした授業実践を行うことができた。授業中における読みの活動に対して意欲喪失、進んで取り組まない、定着不十分といった反応を示す児童を授業観察とアセスメントを通して把握し、次の時間で反応に基づく支援策を一斉授業の中で取り入れたり、授業中にさりげなく声をかけて支援を行ったりすることにつなげることができた。</p> <p>つまずきの反応を示す児童を念頭に置いた一斉授業での効果的な支援を全体指導で取り入れることによって、漢文や近代詩といった初見では読むことが難しい題材を扱う授業であった。しかし、作品を読むことを通してリズムや作品から受ける印象を感じながら楽しんで読むことができていたことから、対象以外の児童に対しても一定の効果があったと考えられる。</p> <p>また、伸びや進歩が見られず、つまずきに対して予防的な対応が必要になると思われた児童に対して、二次的な支援を行ったことで効果も見られた。</p>
<p><b>Ⅳ 考察</b></p>	<p>授業観察と児童の実態や伸びを把握するアセスメントの併用は、教師の経験や教師の教えやすさ、教師の教授技術に頼りがちな授業実践において、根拠をもって支援の方法が策定でき、その効果を確認することができることにおいて有効であったと感じる。</p> <p>今後学校に戻ってからも、学校で学ぶ全ての授業の学びが保証される特別支援教育の可能性を探りながら、授業研究を行っていきたい。そして研究の視点を忘れずに、実践を客観的にとらえ、理論と融合させながら教育効果や児童の変容を実証していきたい。</p>